様式第３号

事務事業評価表（内部管理事務等）

評価対象年度	令和　元　年度
１次評価日（主幹等）	2 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	2 年 3 月 31 日

1 事業名	まち・ひと・しごと創生推進事業	コード	15102

2 担当部課	部等	企画政策部	課等	企画課	作成者	清水　亮	

3 事業概要	目的体系	基本目標	みんなでつくる、確かな未来を拓くまち		
		政　　策	地域コミュニティの振興	施　　策	市民総参加の推進
	予算科目		まち・ひと・しごと創生推進費	業務委託	なし（直営）
	実施義務		なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令		まち・ひと・しごと創生法		

●事業の実施内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		人口減少の速度を減速させるため、交流人口、関係人口の創出・拡大を図るとともに、移住・定住の促進に向けた各種事業を展開する。
目的	対象者	
	意　図	岡谷市の知名度向上と、地域と多様につながる関係人口の創出、拡大を図る。

5 事業の実施内容

＊元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

●岡谷市まち・ひと・しごと創生推進室会議の開催
外から人を呼び込むための施策展開について検討を行った。
（5回開催　7/24、9/19、10/8、10/24、1/17）

●交流人口、関係人口の創出・拡大、移住・定住の促進のための事業実施計画
令和2年度実施事業として、新たに4つの事業を企画した。
・インスタグラムフォトコンテスト事業
・おかやスポーツツーリズム事業
・おかやの魅力体験事業
・若おかや暮らし応援事業

前年度の課題への対応	まち・ひと・しごと創生推進室会議を開催し、人口動態の状況について理解を深めるとともに、取り組むべき事業の企画立案を行った。

6 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

区　分		29年度	30年度	元年度	2年度（予算）
① 直接事業費		31,975	18,100	0	9,440,000
経常経費		31,975	18,100	0	9,440,000
臨時的経費					
＊臨時的経費の説明					
② 人件費		5,600,000	5,600,000	4,000,000	8,000,000
正規職員の人数（人）		0.70	0.70	0.50	1.00
③ 合計コスト（①＋②）		5,631,975	5,618,100	4,000,000	17,440,000
前年度比			99.8%	71.2%	436.0%
財源内訳	一般財源	5,631,975	5,618,100	4,000,000	17,440,000
	特定財源	0	0	0	0
＊特定財源の説明					
④ コストに関する補足説明					

イ）負担金、補助金、交付金の状況

［単位：件、円、%］

負担金補助金		29年度	30年度	元年度	2年度（予算）
就業・創業移住支援事業補助金	件数	－	－	－	4
	金額	－	－	－	4,000,000
おかやの魅力体験事業補助金	件数	－	－	－	20
	金額	－	－	－	1,430,000
若者おかや暮らし応援事業補助金	件数	－	－	－	15
	金額	－	－	－	2,700,000
大学等進学資金利子補給金	件数	－	－	－	59
	金額	－	－	－	414,000
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	8,544,000
	割合	0.00%	0.00%	-	90.51%

●改善の内容（ACTION）

7　具体的な課題と改善

課題	（事務を正確に実施し、少ない費用で効率的に事業を行う上で、現在課題になっていること） ・令和元年の社会動態は96人の減で、社会動態における減少幅は大きく縮小となった。しかしながら、総人口は引き続き1%程度の減少を続けていることから、交流人口、関係人口の創出・拡大に取り組むとともに、移住・定住をさらに促進する必要がある。
改善方法	（上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ・新たに取り組む事業について効果的な周知に努め、より多くの人に足を運んでもらえるよう取り組む。 ・関係部課等が人口減少、少子高齢化に対して共通認識と議論を深め、効果的に事業を展開する。
改善開始時期	R2.4月～

●次年度の計画（PLAN）

8 次年度の方針	継続して実施	９ 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	B